

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究・普及
課題名：マダカアワビ種苗の放流適水深			
<p>[要約] マダカアワビ種苗の放流に適した水深を把握するため、マダカアワビ種苗を水深別（5m, 10m, 15m）に放流した結果、放流 48・49 日後では水深 15m 区で最も生残率が高かった。この結果及び、マダカアワビとクロアワビとの交雑の問題を総合すると、マダカアワビ種苗の放流場所は水深 15m 以深が望ましいと考えられた。</p>			
キーワード [※] マダカアワビ, 種苗放流, 放流適水深			
実施機関名	主 査	千葉県水産総合研究センター 資源研究室	
実施期間	2006 年度～2007 年度		

[目的及び背景]

アワビ資源の回復のためには効率的な種苗生産・放流をする必要があり、平成 19 年度までに種苗量産技術が開発されたマダカアワビについて、放流技術の開発が求められている。しかし、クロアワビ、メカイアワビより深所に生息する本種については、稚貝の生息状況について水深 20m 程度の深所でのみ採集が報告されている他は、生態的知見が乏しく種苗の放流適水深に関する情報が少ない。そこで、マダカアワビ種苗の試験的放流により水深別の生残率を比較するとともに、クロアワビとの交雑に関する知見もふまえて、マダカアワビ種苗の放流適水深を検討した。

[成果内容]

- 1 マダカアワビ種苗の放流水深別の生残特性を把握するため、2007 年に南房総市千倉町川口地先の、水深 5, 10, 15m 地点において、それぞれ L 字型コンクリート板（60cm×40cm）17 枚により造成した 3 試験区を設定し、平均殻長 31.3 mm の種苗を 1,000 個体ずつ放流した。
- 2 放流 48・49 日後に試験区周辺で回収した放流貝から算出した生残率は、水深 5m 区が 31.4%、10m 区が 29.0%、15m 区が 53.5% で、水深 15m 区の生残が最も良かった。また、成長、肥満度には水深による差はなかった。
- 3 この水深別放流試験の結果及び、マダカアワビがクロアワビと遺伝的に極めて近縁で、生息水深の重なる浅所への放流では両種間で交雑が起こるとの知見があることから、マダカアワビ種苗の放流水深としては天然の生息水深である水深 15m 以深が適していると考えられた。

[留意事項]

[普及対象地域]

県下アワビ漁業地区

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 マダカアワビ種苗の放流48・49日目の成長と生残（平均±標準偏差）

試験区	殻長 (mm)	体重 (g)	肥満度	生残率
5m	35.1±2.8	5.2±1.3	1.16±0.15	31.4%
10m	34.6±2.8	4.9±1.2	1.16±0.10	29.0%
15m	34.5±2.8	4.7±1.2	1.13±0.14	53.5%

[発表及び関連文献]

[その他]